

北海道の開拓とインフラ整備の歴史

～豊平川流域治水と札幌本府から近代都市札幌への発展と未来～

Image Landsat / Copernicus
Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO
Image © 2024 Airbus

Google Earth

日時

令和6年 6月19日 水 12:55～16:50
2024年

開催場所

Web Zoom (WEB会議アプリ) にて全国域配信予定

申込方法

弊社ホームページの受付フォームからお申し込みください

ZOOM
Webセミナー
受講無料
定員 1000名

講演会次第

開会挨拶	12:55～13:00	一般社団法人 建設イノベーション推進機構 代表理事 金澤 義輝
基調講演 終了後質疑応答5分	13:00～14:00	「豊平川の治水計画史」～はじまりは古市公威、そして気候変動対策に向けて～ 特定非営利活動法人公共環境研究機構 特別研究員 元国土交通省 北海道局長(工学博士・技術士) 品川 守 氏
講演・1 終了後質疑応答5分	14:05～14:50	「水の都」の前史・札幌扇状地の形成～扇状地を造った暴れ川・豊平川の原始の姿を探る～ 特定非営利活動法人 HRCG 北海道総合地質学研究中心シニア研究員(理学博士) 宮坂 省吾 氏
	14:55～15:05	休憩
講演・2 終了後質疑応答5分	15:05～15:50	「初期道庁時代の豊平川近傍原野における土地開発」～札幌湿地原野の開発～ 北海道産業考古学会 元北海道庁 主任技師 塩原 達彦 氏
講演・3 終了後質疑応答5分	15:55～16:40	「石狩川流域を含む北海道道内の水循環 リスク情報を踏まえた世界展開に向けて」 北海道大学大学院 工学研究院土木工学部門河川・流域工学研究室 教授 山田 朋人 氏 The 9th GEWEX-OSC 国際会議 札幌実行委員会 委員長
閉会挨拶	16:45～16:50	一般社団法人 建設イノベーション推進機構 副理事長 山口 篤志

豊平橋 (明治8年～11年)

背景資料提供: 北大附属図書館蔵

主催：一般社団法人 建設イノベーション推進機構
共催：公益社団法人 土木学会 土木史委員会 / 北海道産業考古学会
協賛：岩田地崎建設(株)、伊藤組土建(株)、(株)草別組
(株)ドーコン、(株)構研エンジニアリング、(株)開発調査研究所、(株)シン技術コンサル、
日本データサービス(株)、北海道土木設計(株)、アースコンサルタント(株)、新和測量(株)
(株)アイ・ティ・エス
後援：北海道開発局、北海道、札幌市、北海道開発技術センター、北海道道路管理技術センター、
北海道河川財団、石狩川振興財団、北海道建設業協会、北海道建設技術センター、
建設コンサルタンツ協会北海道支部、日本技術士会北海道本部、北海道測量設計業協会、
北海道新聞社、北海道建設新聞社、北海道通信社 (順不同)

お申込みはこちらから

IPAC 一般社団法人 建設イノベーション推進機構
<https://www.ipac.or.jp/event20240619/>



北海道の開拓とインフラ整備の歴史

～ 豊平川流域治水と札幌本府から近代都市札幌への発展と未来 ～

講演会の主旨・概要

明治維新前後の新たな日本の国造りにおける近代産業の振興に伴い、人口の急激な増加、(産業)都市の発達、交通手段の改革等の社会変革が進みました。これに伴う産業用薪炭材・建築材・土木資材などとして木材需要の増大は森林伐採を進め、結果として、明治中期は歴史的にもっとも山地・森林の荒廃が進み、土砂災害も頻発していた時期とされる。このような状況下で、明治政府は、1896(明治29年)に河川法、1897(明治30年)に森林法・砂防法をあいっいで制定し、現代にいたる国土保全政策の礎を築きました。

北海道においては、明治2年、札幌を北海道開拓の本府と定め、未開の原生林を拓き建設が進められましたが、その立地する豊平川扇状地は急流河川で氾濫を繰り返したことが明らかにされています。こうした流況下での急速かつ安全な都市建設にとり、開拓使以降、特に人口が急増し始めた道庁時代(明治19年)以降、治水対策は基本的な条件でした。

本講演では、道都札幌の急成長を可能にした治水対策・開拓の経緯とその背景にある急流の原始の姿、さらに将来予測される気候変動への取組みとして社会インフラの保全に関する流域治水を含む検討など、最先端の現状を学ぶ場とします。

基調講演：「豊平川の治水計画史」～はじまりは古市公威、そして気候変動対策に向けて～

札幌の街づくりは開拓使が豊平川扇状地に中心市街地を形成したことにはじまる。初期の課題は扇状地上を縦横に流れていた暴れ川を治めることにあり、百万都市を流れる屈指の急流河川の治水対策は幾多の計画を経て現在も続いている。一方、開拓の進展や市町村合併・市街化の急速な進展など街は拡大を続け、流域下流部の沖積低平地を拓くことにより現在の広大な札幌市が形成されてきた。気候変動に備えた対策の推進と次の街づくりのために豊平川の治水特性を探る。

講演1：「水の都」の前史・札幌扇状地の形成～扇状地を造った暴れ川・豊平川の原始の姿を探る～

豊平川の祖先河川は硬石山を過ぎてから火砕流台地を側刻して平岸扇状地を造った後、藻岩山などの西部山地の東縁を北流して札幌扇状地を形成した。西暦1801年頃の大洪水はサッポロ川からツイシカリ川への流路を形成し、現在の流域の基本ができあがった。アイヌ文化期の集落は、扇状地の名残川・コトニ川に沿って広がっていた。開拓使は豊平川などを水運や工業に利用したほか、扇端域の湧泉池を庭園に組み込んで「水の都」の花とした。講演では扇状地の形成史を古地図・古写真で紹介し、自然河川時代の豊平川を偲びます。

講演2：「初期道庁時代の豊平川近傍原野における土地開発」～札幌湿地原野の開発～

豊平川近傍の湿地原野は、開発の困難さから北海道の中心地札幌近傍にもかかわらず、ほぼ手つかずの状態に置かれていた。明治19年北海道庁が設置され、この湿地原野開発が本格的に取り組まれることとなった。本講演では、「札幌原野排水及道路」という総称で実施されたこの一連の工事と、明治28年に至り実施された「軽川花畔原野排水」、「茨戸(花畔)銭函間運河」工事について、その内容を紹介する。

講演3：「石狩川流域を含む北海道道内の水循環 リスク情報を踏まえた世界展開に向けて」

講演者らは、地球規模の気候予測から流域スケールにおける将来の降雨特性に至る洪水リスクの一連のプロセスを分析・評価し、それに基づく地域の治水を含む地域づくりに関する研究を行っています。本講演では、豊平川を含む石狩川流域を対象とした研究成果と共に、講演者が代表を務めている内閣府主導の研究プロジェクトならびに本年7月に札幌で開催される「第9回全球エネルギー水循環プロジェクト国際会議」について紹介します。

参加お申し込み方法

以下のURLにアクセスして、専用の申込フォームよりお申し込みください。

お申し込み期限は6月14日金曜日までとさせていただきます。

<https://www.ipac.or.jp/event20240619/>



お問合せはMailにて承ります Mail: ipac@it-systems.co.jp



一般社団法人

建設イノベーション推進機構

Innovation Promotion Agency for Construction